

レイヤの表示状態を示すヒント

表示画面に多数のレイヤが表示され、凡例パネルのレイヤリストを上下にスクロールすることがよくあります。そのような場合でもチェックボックスを使えば、簡単にレイヤの表示 / 非表示を切り換えることができます（「空間表示:ラスタレイヤキャッシング (Spatial Display:Raster Layer Caching)」と「図形レイヤキャッシング (Geometric Layer Caching)」を参照）。地図縮尺によるレイヤの表示 / 非表示コントロールは、レイヤがオンになっているにもかかわらず、ある縮尺では描画されないため、初ねて見る人に戸惑いを与えるでしょう。また、見たいレイヤが現在、表示画面に表示されているか知りたい場合もあります。

凡例パネルにおけるレイヤ名の文字色はレイヤの表示状態を示しています。この状態は凡例パネル内のレイヤ名に対するデータティップでもレポートされています。

- **黒** レイヤが表示画面に表示されている時、レイヤ名は黒で表示されます。
- **青** レイヤの範囲が現在の表示範囲の外にあるとき、レイヤ名は青で表示されます。
- **緑** 現在の表示スケールが設定された地図スケールの範囲外にある場合、レイヤ名は緑色で表示されます。

- **赤** 現在の表示設定で表示するには再描画する必要がある場合、レイヤ名は赤色で表示されます。〈表示マネージャ〉ウィンドウから [オプション] > [表示ウィンドウオプション] メニューを選択し、〈オプション〉ウィンドウの [表示ウィンドウ] タブパネルで [変更後に再描画] オプションがオフに設定されている場合だけレイヤ名が赤で表示されます。この



オプションをオフにして、〈レイヤコントロール〉を開いて描画スタイルを変更すると、再描画するか、表示の拡大縮小や移動等の再描画の発生するような動作が行われるまで描画スタイルは更新されません。

- **灰色** レイヤが画面に表示されていない時、レイヤ名は灰色のかすれた状態になります。かすれた文字色のレイヤは [非表示 / 表示] インジケータによって表示がオフになっているか、他の理由で表示がされていないかです。

文字色に違いを付けたのは、レイヤが非表示になっている、範囲外、描画パラメタの変更があった等の可能性を示唆するためです。もし、グループが非表示になっていたり、地図縮尺のせいで表示オフの状態であれば、凡例パネルでのレイヤ名はかすんでいたり、緑色になります（レイヤの範囲が画面内に収まっていて、描画スタイルを変更して再描画する前でも同じです）。現在の縮尺で表示されていて、データ範囲が画面に収まっていないくて、スタイルの変更が行われたレイヤ名は青く表示されます。グループ名は常に黒で表示されます。



緑色は、現在の縮尺が設定されている表示可能縮尺の範囲外にあるため表示されません。

青色は、現在の表示範囲にオブジェクトがないことを示しています。

これらのレイヤは非表示にされているので灰色（かすれた表示）になっています。

赤色は、表示スタイルの変更がなされた後、再表示が行われていないことを示します。

再表示後

現在の地図縮尺のせいでオフになっていたり、現在の表示範囲内に収まっていなかったり、または表示設定の変更でレイヤの再表示が必要だったりしてレイヤが見えない場合は、レイヤ名の上にカーソルを置いてみて下さい。表示されるデータティップに文字色の理由が書かれています（最終行）。非表示のレイヤにはこのような説明はありません。レイヤ名の左にチェックマークが無いことで分かるからです。